

みずほCustomer Desk Report 2022/10/24号 (As of 2022/10/21)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	150.26 AUD/USD
TKY 9:00AM	150.18	0.9780	146.81	1.1222	0.6275
SYD-NY High	151.94	0.9869	148.38	1.1314	0.6395
SYD-NY Low	145.50	0.9705	144.17	1.1060	0.6212
NY 5:00 PM	147.79	0.9863	145.49	1.1310	0.6395

	終値	(前日比)	終値	(前日比)
NY DOW	31,082.56	748.97	日本2年債	▲0.0100%
NASDAQ	10,859.72	244.88	日本10年債	0.2500%
S&P	3,752.75	86.97	米国2年債	4.4809%
日経平均	26,890.58	▲116.38	米国5年債	4.3465%
TOPIX	1,881.98	▲13.43	米国10年債	4.2178%
シカゴ日経先物	27,100.00	95.00	独10年債	2.4330%
ロンドンFT	6,969.73	25.82	英10年債	4.0250%
DAX	12,730.90	▲36.51	豪10年債	4.2040%
ハンセン指数	16,211.12	▲69.10	USDJPY 1M Vol	15.70%
上海総合	3,038.93	3.88	USDJPY 3M Vol	14.39%
NY金	1,656.30	19.50	USDJPY 6M Vol	13.68%
WTI	85.05	0.54	USDJPY 1M 25RR	▲1.66%
CRB指数	272.36	0.64	EURJPY 3M Vol	14.29%
ドルインデックス	112.01	▲0.87	EURJPY 6M Vol	14.02%

東京	東京時間のドル円は150.18レベルでオープン。仲値近辺につけた150.14を底値にその後はじりじりと上昇する展開。特段目立った材料のない中、為替介入に対する警戒感に依然強いものの、米金利の上昇を背景としたドル高基調に徐々に水準を上げると、前日の高値を抜け150.43まで上値を更新。150.42レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は150.42レベルでオープン。東京時間で円が売られた流れを引き継ぎ、さらに水準を上げる展開に、151円台の手前まで買われると、為替介入に対する警戒感が強まったからか、円売りの勢いが失速し、こう着状態となった。数時間の間同レベルを挟んで推移したが、日銀による発言や介入の気配がなかったことから円売りが再熱し、151.59円まで上昇し32年ぶりの高値を更新。151.51レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は150円台前半でスタート。円買い介入への警戒感に依然強いものの、米金利上昇を眺めながらじりじりと上昇。151円も難なく突破し、早朝には151.59をつけ、151.51レベルでNYオープン。海外時間の流れを引き継ぎ朝方は米長期金利が4.33%台まで上昇するとともに151.94まで上値を伸ばす。しかし、一部報道からFRBが利上げペースを鈍化させる可能性が示唆されると米金利は低下に転じ、ドル円も151円台前半まで反落。その後、円買い介入の噂が広まる中、円買いが強まり145.50まで急落。週末で参加者が少なかったこともあって、その後、146~148円台のレンジで荒い値動きが続く。午後に入ると次第に落ち着きを見せるも、依然と不安定な値動きとなっており、結局、147.79レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは0.97レベル後半でスタートし、終始米金利眺めながら上下する展開となり、0.9746レベルでNYオープン。朝方の米金利上昇局面で安値0.9705をつけるも、先述のFRB利上げペース減速を巡る観測報道や一部FRB高官のハプティック発言を受けて反転した米金利を横目に0.9869まで反発。結局、0.9863レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 逸見・多川

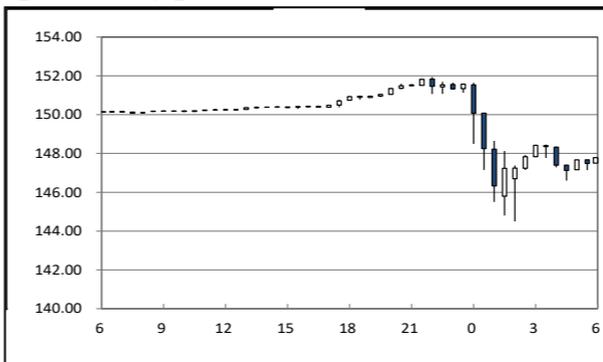
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月21日	08:30	日 全国CPI	9月 3.0%	2.9%
	08:30	日 全国コアCPI	9月 3.0%	3.0%
	08:30	日 全国コアコアCPI	9月 1.8%	1.8%
	15:00	英 小売売上高(除自動車燃料、前月比/前年比)	9月 -1.5%/-6.2%	-0.4%/-4.2%

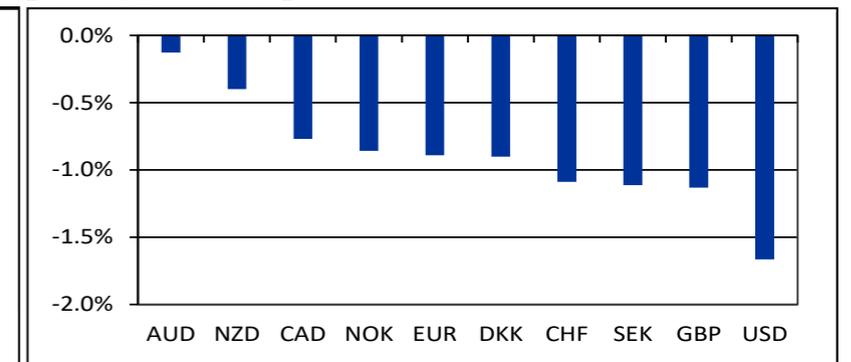
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月24日	17:00	欧 製造業PMI速報	10月 47.9	48.4
		欧 サービス業PMI速報	10月 48.2	48.8
	21:30	米 シカゴ連銀全米活動指数	9月 -0.10	0.00
		米 製造業PMI速報	10月 51.0	52.0
		米 サービス業PMI速報	10月 49.5	49.3

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	147.50-150.50	0.9750-1.000	146.00-148.00

【マーケット・インプレッション】

先週末のドル円は急落。東京時間に150.18レベルでオープン後、新規材料に欠ける中、ドル買い円売りの流れが継続し上値を150.43まで更新。海外時間入り後も流れは変わらず、じり高推移となると151円台を突破。さらに米長期金利が4.33%台まで上昇すると、151.94をつけた。しかし、FRBが利上げペースを鈍化させる可能性について報道されると、米金利は低下。更に円買い介入への思惑もある中、円買いが強まると145.50まで急落。その後、146~148円台での荒い値動きが続く。147.79レベルで越週した。
先週末のWSJの報道を受け、Fedの利上げスタンスの継続性に疑義が生まれており、ドルは全面安となる中、11月FOMCに向けたブラックアウト期間に入った。ドル円上昇の片輪であったドル高圧力が弱まったことで、ドル円は上値の重さを意識せざるを得ない状況。今週は米GDPや米主要企業の決算、日欧は金融政策決定会合など、市場の思惑を焚きつけるような材料が豊富であり、値幅を伴った値動きには引き続き警戒したい。